

**度重なる困難に耐えて  
 真摯に学校生活と向き合った3年間  
 未来は皆さんの手の中にきっとあります**



**祝 卒業**

**平成最後の入学生216名**

**「笑顔」の旅立ち**



特集...Special edition

- 2学年修学旅行・わくわくサイエンスin巨摩高
- 課題研究発表会・各種大会での活躍(ホッケー部・科学の甲子園ほか)
- 1学年職業別進路講演会・自転車交通安全教室ほか



Hot News ほっとにゅーす

**1学年職業別進路講演会**  
 11月10日(水)、1年生対象の進路講演会(職業別講話)が実施されました。リハビリ、保育、教育、ファッション、デザイン、看護・医療、福祉、建築・土木、公務員など様々な分野について、大学・短大・専門学校の先生方から丁寧な説明をしていただき、将来の職業や今後の進路について考える良い機会となりました。

**自転車交通安全教室  
 (スクアドストリート)**  
 12月10日(金)に自転車交通安全教室が行われました。JA共済の交通事故対策活動として、JA南アルプス市と南アルプス警察署の協力を得て開催されたもので、プロのスタントマンが事故をリアルに再現し、それを目の前で見るという貴重な機会となりました。交通ルールはもとより、自転車を運転する上で盲点となりやすい危険個所について説明をしていただき、生徒たちは事故の恐ろしさを実感し、交通安全の意識を高めることができました。

将来について考える  
 良い時間となりました

事故の恐ろしさを実感!!

本校巨摩高等学校は、大正11年に「山梨県立第三高等学校」として創立され、その後「県立巨摩高等学校」として「県立巨摩高等学校」と校名を変えつつ、峡西南地域の中核校としての歴史を築きあげてきた伝統校です。この間、校訓である「進修実践」のもと、約3万名の有為な人材を社会に輩出してきました。そして、令和4年に創立100周年を迎えます。

校訓「進修実践」の進修とは「徳を進め、学を修める」という言葉で、まず「徳」つまり、心を育み、その上に「学問」を身につける、これを日常の中で実践しなさい、という意味です。本校では、この校訓のもと、「高い志と挑戦する気概を持ち、何事にも主体的に取り組み生徒を育成する」という教育目標を掲げ、それを実現する取り組みを「巨摩スタイル」として教育活動を進めています。その中で、生徒が

しっかりと目標を設定し、それを目指して学べる環境・雰囲気をつくり、主体的に楽しく学ぶことができるICTを取り入れた授業の構築、皆で協力協働し、切磋琢磨して活動に取り組み部活動、国際交流教育や地域と連携した教育、先進的な理数教育を展開する独自のカリキュラムによる取り組みや山梨大学と連携した教育活動など、新たな伝統を築く努力を重ねています。生徒たちには、新たな伝統を築く主役として、まず優しく穏やかに伸びやかな心を育み、その上に確かな学ぶ力を身につけて欲しいと願います。

巨摩高校で学ぶ子どもたちが、持てる力を存分に発揮し、巨摩高校の伝統のよき後継者となり、新たな歴史を作り上げていくことを期待しています。

kouchou sensei kara  
**Hi-To-Ko-To**  
 巨摩高校は  
**創立100周年を  
 迎えます**  
 校長 横森 伸司



No.034  
 巨摩高百景

**「身近な楽園」**  
 コロナ禍になり、水道場に行く機会が以前より増えました。手を洗いに行く、友人たちの何気ない会話や笑い声が聞こえてきます。そこはまるで楽しい社交場のようなのでした。私たち巨摩高生の中で、水道場はいつの間にか生徒の楽園になっていたのです。

写真部 深澤 史雄  
 (櫛形中学校出身)

巨摩高だより  
**KOMA**style VOL.66

- 発行...山梨県立巨摩高等学校  
 〒400-0306 山梨県南アルプス市小笠原1500-2  
 TEL.055-282-1163 FAX.055-282-1104
- 発行日...令和4年2月22日
- 編集...山梨県立巨摩高等学校 総務・広報部
- 撮影協力...山梨県立巨摩高等学校 写真部

巨摩高校のコト、もっと知りたくなったら、ホームページにアクセス!!

巨摩高校 検索 URL...http://www.ko.kai.ed.jp/  
 E-mail...info@ko.kai.ed.jp

## 2学年課題研究発表会より

「課題研究を通しての学び」 上原 茉莉香(八田中学校出身)

今回の課題研究を通して私は多くのことを学びました。一つは仲間を頼ることです。研究を進めるにあたって班長を任された私は、皆の意見を聞きつつも、取りまとめについては一人で作業を進めていました。そんな中、班のメンバーから「手伝うよ」と声をかけてもらい、全員でまとめ上げた発表はとても良いものになりました。もう一つの学びは、SDGsを私たちが自分のこととして考えることの大切さです。今回の課題研究では「住みやすい町づくり」という目標をテーマに掲げて取り組みました。調べていくうちに、私たちに解決すべき問題が沢山あることを知りました。この先の未来を守るために、今私たちができること、それはSDGsが示す課題を深く学んでいくことだったのです。



## 11月以降の各種大会での活躍

ホッケー部

### 全国高等学校選抜大会出場

ホッケー部 樋泉 友那(白根御勅使中学校出身)

高校3年間の集大成として挑んだ全国選抜大会。対戦相手はインターハイで惜敗した京都の須知高校。全員がリベンジに燃え、気持ちが入った中で試合に臨んだ。一進一退の攻防が続いていたが、前半に相手に点を決められてしまった。最後まで諦めずに攻め続けたが得点することはできず、0-1のスコアで終わってしまった。納得のいく結果ではなかったが、全員が全力を尽くした大会となった。この3年間、様々な面で支えてくれた沢山の方々に感謝の気持ちを伝えたい。そして、どんな事も一緒に乗り越えてきた6人の3年生には一番感謝している。



## 科学の甲子園山梨県大会 総合競技2位入賞

11月14日(日)に「科学の甲子園山梨県大会」第1ステージがオンラインで行われました。2年生が修学旅行で参加できなかったため、理数創造コースの1年生2チームが出場しました。県全体では39チームが出場しています。第1ステージでは筆記競技と総合競技があり、総合競技の内容は「重さを量れ!」です。指定された材料、道具を使用し重量を正確に量り誤差で勝敗をつけます。内容には、1年生ではまだ学習していない分野があるため、10月に理数創造コースの1~3年生合同で学習会を行いました。当日は両チーム共にチームワークがよく、スムーズに「はかり」を作ることができ、計測も完璧でした。準備は大変でしたが、とても充実した大会となりました。

## 上記以外の大会結果

【団体】

- 陸上競技部 山梨県高等学校駅伝競走大会 男子第2位、女子第4位  
関東高等学校駅伝競走大会 男子・女子出場(ともに20回出場表彰)
- 弓道部 峡西南地区弓道大会 男子団体第3位、女子団体第1位  
山梨県高等学校弓道大会 男子団体 第2位
- 女子テニス部 山梨県高等学校新人大会テニス大会 団体の部 第3位
- 音楽部 山梨県高等学校芸術文化祭 合唱部門の部 優秀賞
- 箏曲部 山梨県高等学校芸術文化祭 日本音楽部門の部 優秀賞
- 吹奏楽部 山梨県高等学校芸術文化祭 吹奏楽専門部発表会 優良賞  
山梨県アンサンブルコンテスト 高等学校の部  
管楽打楽器5重奏 金賞、木管打楽器8重奏 金賞  
山梨吹奏楽コンクール新人戦 高等学校Aの部 銀賞
- 家庭クラブ 山梨県高等学校芸術文化祭 家庭クラブの部 優秀賞

【個人】

- 山梨県高等学校研修バドミントン大会 男子シングルス第3位 市川大翔

- 関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会 男子5000m 第2位 内堀 勇
- 峡西南地区弓道大会 男子個人第3位 齊藤康暉、女子個人第1位 細川陽加
- 南アルプス市ジュニアチャンピオンズテニス大会 男子シングルス準優勝 若林実央
- 南アルプス市ジュニアチャンピオンズテニス大会 女子シングルス準優勝 林梨里花
- 山梨県高等学校新人大会体操女子 個人総合第3位 竹鶴心咲(跳馬 第3位、平均台 第3位、ゆか 第3位)
- 山梨県高等学校芸術文化祭テーマ 奨励賞 松本さくら
- 青少年読書感想文コンクール高等学校の部 入選 井上万夕、長沼里緒菜  
佳作 広瀬心菜、長屋 伶、田中元太、遠藤とも
- やまなし心のバリアフリーを広げるポスター・標語 佳作 中込 希
- 科学写真展 優秀賞 山梨県教育委員会教育長賞 宮澤志恩  
優秀賞 山梨科学推進グループ賞 飯野百合那  
後援団体賞 読売新聞社賞 手塚 詠  
科学館館長賞 中込大地、奨励賞 小野苺華



## 2学年 修学旅行

私たち二年生は、東北・北関東地方への修学旅行で、四日間さまざまな体験をしてきました。十年前実際に津波の被害に遭った地区や施設を訪れたり、宮城県の農業・漁業に触れたり、グループに分かれて多くの角度から震災とSDGsについて学ぶことができました。中でも語り部さんのお話は、ただメディア等から情報を知識として得るだけでは到底想像できないような辛く悲しいものでした。しかし私たちは、それを自然がもたらした悲劇として美化するのではなく、そこにあった事実や課題を教訓にするべきだと気づかされました。コロナ禍にこうした機会をいただけたことに心から感謝し、必ずこの学びを自分自身や社会の未来に繋げていきたいと思っています。

「震災を教訓に」  
深澤 杏梨(増穂中学校)



## Science わくわくサイエンスin巨摩高

12月18日(土)、南アルプス市内の小中学生を対象とした科学の体験イベント「わくわくサイエンスin巨摩高」を開催しました。理数創造コースの1,2年生が9つの実験ブースに分かれて、超低温の世界や手作り顕微鏡などを小中学生に説明した後、一緒に作品を制作したり、実験を行ったりと楽しい時間を過ごしました。



「子供たちに科学の楽しさを伝えて」 藤巻 優芽(敷島中学校出身)

私は「わくわくサイエンス」を通して、子供たちと関わる楽しさを改めて実感することができました。高校に入学してからは子供たちと接する機会がほとんどありませんでした。そんな時、このイベントで、理数創造コースの生徒として小中学生に科学の魅力を伝えられると知ってとても楽しみでした。

私たちのグループは酵素パワーを体験するブースを担当しました。本番までの準備中は、本当に子供たちに楽しんでもらえるか心配でしたが、当日、実験を見せたところ、予想していたよりもずっと反応が良く、食いついてくれたので、企画は成功裏に終わることができたと思います。今回の「わくわくサイエンス」は、子供たちと関わる楽しさと同時に、自分たちのプレゼンテーション能力も試すことができた非常に有意義なイベントとなりました。